
さようなら

活動停止

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さようなら

【Nコード】

N6530B

【作者名】

活動停止

【あらすじ】

ビルの上から見下ろす下界は光に溢れていた。

高いビルの上から見下ろす下界は、華やかなネオンの光に包まれていた。空には漆黒の闇。月さえも厚い雲に覆われて、姿を現さない。或いは、下界の光にその輝きを奪われてしまったのかも知れない。

そんな光景を見ながら、ふっと笑みを漏らした。急に虚しくなったからだ。こんな光の渦に飲み込まれて、毎日毎日働いていたのだと思うと、滑稽としか言いようがなかった。

勤続32年。特別な地位を望んだ訳ではない。皆勤とまではいかないが、有給休暇も極力取らずにただ上の命令通りに仕事をこなしていた。秀でてはいなかったが、劣ってもいなかった。無難に生きてきた。筈だった。

所謂リストラ。突如突き付けられた現実。目の前が真っ暗になり、頭の中が真っ白になった。部長は申し訳なさそうに、自分の立場を理解してくれと、仕方が無かったのだと語った。

そんな事はどうでも良かった。

54歳の自分と、52歳の妻。24歳の息子に20歳の娘。18歳になったばかりの末娘。一家の大黒柱の醜態に、家族はどの様な反応を見せるだろうか。

ビルの縁に座り、足をだらりと下界へ垂らす。ぶらぶらと子供の様に足を揺らす。子守唄を微かに口ずさみながら、それに合わせて身体も揺らす。ゆらゆら、ゆらゆらと。

ふと、思い立った様にその場にスクツと立ち上がった。場所が高

い所為か、身体に掛かる風圧が強い。それを受け止めるかの様に、両手を広げた。瞳を閉じる。脳裏に浮かぶのは、家族の顔。

既に就職した息子に全てを託すのは酷だろうか。最低の父親だろうか。

ふと、また笑みが溢れた。家族にすまないと思う反面、これでの苦痛から逃れられるという安堵感が込められていた。

ゆっくりと足を踏み出す。足が空を踏む。ふわりと身体が舞い上がる。

幾千の光の渦の中に、その身体は吸い込まれて行った。

世界よ、さようなら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6530b/>

さようなら

2010年12月31日04時54分発行